

平成28年度 名寄市教育改善プロジェクト委員会
学習指導の工夫改善に関する研究グループ

1 委員名簿

主任・副主任	研究主任・副主任	研究員
【学習指導】 ○向山校長（智恵文中） 川崎校長（智恵文小）	○貞弘教頭（名寄東中） 重森教頭（風連下多寄小）	金澤教諭（名寄小） 齋藤教諭（名寄東小） 柏倉教諭（風連中央小） 田中教諭（風連下多寄小） 今内教諭（風連中） 堀田主幹教諭（名寄東中）
【道徳教育】 ○池田校長（名寄小） 那須校長（名寄東中）	○赤澤教頭（風連中央小） 大野教頭（名寄南小）	増田教諭（名寄小） 福川教諭（名寄南小） 栗林教諭（名寄西小） 斉藤教諭（名寄中） 飯濱教諭（智恵文中）

2 研究内容

- (1) 参観日を利用した保護者・地域住民からの学習規律評価の分析と取組内容交流
- (2) 児童生徒の思考力，判断力，表現力等を育むための授業研究
・ミドルリーダー育成研修会
- (3) 資料「名寄岩」を用いた道徳の時間の実践交流
- (4) 昨年度作成の道徳指導案【中学校第3学年「メッセージ 松井秀喜」】による授業研究

3 取組概要

- < 4月26日 > ◇第1回名寄市教育改善プロジェクト委員会
◇第1回グループ会議
○研究内容と活動計画の協議
- < 5月16日 > ◇第2回名寄市教育改善プロジェクト委員会
◇第2回グループ会議
○ミドルリーダー育成研修会
・思考力，判断力，表現力を育む指導法
○研究内容と研究計画の確認
- < 10月19日 > ◇第3回グループ会議
○「松井秀喜」道徳指導案による授業研究
(名寄中 第3学年全学級公開)
○学習規律の徹底に向けた保護者評価アンケートの取組
・各校からの成果・課題・取組内容の発表と交流
○思考力，判断力，表現力を育むための指導案検討
- < 11月25日 > ◇第4回グループ会議
○思考力，判断力，表現力を育むための授業研究（名寄小4年生）
○読み物資料「名寄岩」を用いた道徳授業の実践交流
○資料「メッセージ 松井秀喜」を用いた道徳授業の紙面交流
- < 12月21日 > ◇第3回名寄市教育改善プロジェクト委員会
- < 1月中旬 > ◇研究のまとめ答申
- < 1月24日 > ◇名寄市教育研究会（研究成果発表：福川岳樹教諭）
- < 2～3月 > ◇研究計画（平成29年度）の検討

4 成果と課題

【成果】

- 学習規律を全市的に取り組むことで，落ち着いた雰囲気の中で授業が展開されていると評価した保護者が多かった。保護者評価や児童・生徒へのアンケートで評価結果が低かった「学習規律項目」を重点課題とし，改善に向け取り組んだ結果，2回目の保護者評価結果が向上した学校が多くあった。
- 「思考力・判断力・表現力を育む指導法」のミドルリーダー育成研修会や検証授業及び研究協議を通して，思考力・判断力・表現力を育むための授業改善の視点を明らかにすることができた。
- 「名寄岩」の実践交流や「メッセージ 松井秀喜」の授業研究により，道徳の教科化を見据えた研修を深めることができた。

【課題】

- 今年度の保護者評価結果と，昨年度の児童・生徒による自己評価結果の両調査とも共通して低評価だった項目があり，今後も改善に向けた取組が必要である。

学習規律に関する保護者の皆様によるチェックのお願い

名寄市教育改善プロジェクト委員会

年・組（ 年 組）

名寄市は、学習規律(授業を受けるときの約束事)を10項目作成し、すべての小・中学校で学習規律の徹底に取り組んでいます。

一昨年度は、教職員にアンケートを取り、各学校や名寄市全体の課題を把握し改善に当たってきました。昨年度は、子どもたちからアンケートを取り、子どもたちに自己評価をさせることで改善につなげてきました。今年度は、これまでの集大成ということで、保護者(地域の方)から子どもたちの学習規律に対するチェックをしていただきたいと思います。

学級全体の様子を見て、下記の項目へのチェックをお願いします。チェックしづらいものにつきましては、その部分のみ無記入でも結構です。

今後の更なる授業改善のために、ご協力よろしくをお願いします。

学級全体を見て、当てはまると思うものに○をつけてください。

	できている	どちらかといえば できている	どちらかといえば できていない	できていない
(1) チャイムがなったら 素早く席に着く	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
(2) 学習の始めのあいさつを きちんとする	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
(3) 正しい姿勢で座る	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
(4) はっきり返事をし、 みんなに聞こえる声で話す	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
(5) 話す人を見ながら 最後まで聞く	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
(6) むだ話や手遊びをしない	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
(7) 必要のないものを 机の上に置かない	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
(8) 学習中、勝手に席を離れない	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
(9) 学習の終わりのあいさつを きちんとする	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____
(10) 学習用具を片付け、 次の学習の準備をする	4 _____	3 _____	2 _____	1 _____

教育改善プロジェクト委員会

学習規律に関する保護者(地域)評価について

☆参観日を活用した保護者(地域の方)からの

学習規律評価 **第2回目** をお願いします。

(1) 第2回学習指導の工夫改善に関する研究グループ会議で以下のことを確認しました。

1学期、2学期の参観日で学習規律に関する保護者評価(アンケート形式)をとる(様式は今回送付)。その結果(1回目評価と2回目評価を比較しての向上ポイント、両評価に共通して見られた課題、今後の取組の重点等)を交流し改善につなげる。

※10月以降に実践交流を行うので、2学期参観日の評価が間に合わない学校は、1学期のみの結果で交流。交流時に間に合わなかった学校は学校独自で2回目参観日で評価をとり、1回目結果と比較するなどして改善につなげてください。

(2) 保護者評価実施時期

各校の予定されている参観日で、添付アンケート(学習規律に関する保護者評価)を実施。

1学期参観日(評価) ※6月下旬末～7月半ばに各校の参観日が集中しています。
⇒各校で課題把握・取組
⇒2学期参観日(評価) ※8月下旬～9月上旬に各校の参観日が集中しています。
⇒今後への授業改善

(3) 実践交流

○10月以降に学習指導グループ会議を開催します。その中で交流を予定しています。

○会議の日程が決定しだい連絡します。

2回目の参観日でアンケートを配布・回収、自校集計していただき、今回送付した「保護者評価結果(様式)」にまとめておいて下さい。

※今年度は各校での集計にします。名寄市内全校分集めての集計はしません。

「学習規律に関する保護者・地域住民評価」結果の分析

参観日を利用し、保護者・地域の方に評価アンケートを実施した。「結果・分析」の提出日に間に合った学校については、2回の参観日で実施。その結果と今後の取組をまとめた。

1. 2回を通じて評価が高かった項目 ※高い評価となった要因（手立て）

(1) 小学校

「学習の始めと終わりのあいさつ」については、多くの学校で高い評価であった。また、「勝手に席を離れない」の評価も高く、落ち着いた雰囲気での授業が展開されていることがわかる。また、「学習準備」「聞く姿勢」等を重点課題に取り上げ改善に取り組んだ結果、参観者から高い評価を受けた学校もあった。

(2) 中学校

「チャイム着席」に重点を置いている学校が多い。小学校と同様に「勝手に席を離れない」ことも高い評価を受け、落ち着いた授業展開がなされ乱す生徒はいないようだ。

2. 1回目評価と比較し、2回目評価が向上した項目

他項目と比べ評価が低かった「正しい姿勢」「はっきり返事と聞こえる声で話す」「聞く姿勢」を重点的に指導することで評価が向上した学校が多かった。

3. 2回を通じて評価に課題が残った項目

(1) 小学校

「正しい姿勢」「はっきり返事と聞こえる声で話す」「むだ話、手遊び」が他項目と比較し課題が残った。ただ、これらの項目は『2回目で評価が向上した項目』に挙げられており、各校の取組の様子がうかがえる。

(2) 中学校

「正しい姿勢」「むだ話・手遊び」「聞く姿勢」に課題が残り、小学校と同じような傾向が見られた。これらの項目は、昨年度の児童・生徒による自己評価でも低かった項目であり、一層の改善への取組が必要である。

4. 改善に向けた取組

- 課題となった項目への重点的取組
- 「学習のきまり週間」等のメリハリのある活動
- 児童会・生徒会との連携
- 校内研修の授業公開時における生徒観察
- 全教職員による課題の共有化と保護者への一層の啓発
- 学習規律から考える授業改善



児童生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむための指導法

名寄市立名寄南小学校 教頭 大野 昌広

1 「思考力、判断力、表現力」をはぐくむことが求められる背景

(1) 背景

- ①知識基盤社会の到来，グローバル化の進展＝変化に対応していく能力の育成
 - 幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断
 - 切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々と共存していくこと
- ②国内外の学力調査の結果→思考力，判断力，表現力等に課題
 - 読解力に課題（PISA調査）
 - 記述式問題に課題（全国学力・学習状況調査）
- ③教育基本法の改正等により教育の理念が明確化，学校教育法の改正により学力の重要な要素が規定
 - 学校教育法30条②

前項の場合においては，生涯にわたり学習する基盤が培われるよう，基礎的な知識及び技能を習得させるとともに，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくみ，主体的に学習に取り組む態度を養うことに，特に意を用いなければならない。

(2) 新学習指導要領で「言語活動の充実」を重視→各教科等を貫く重要な改善の視点 □小学校学習指導要領「総則」（一部抜粋）

第1 教育課程編成の一般方針

学校の教育活動を進めるに当たっては，各学校において，児童に生きる力をはぐくむことを目指し，創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で，基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ，これらを活用して課題を解決するために必要な思考力，判断力，表現力その他の能力をはぐくむとともに，主体的に学習に取り組む態度を養い，個性を生かす教育の充実に努めなければならない。

その際，児童の発達の段階を考慮して，児童の言語活動を充実するとともに，家庭との連携を図りながら，児童の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

2(1) 各教科等の指導に当たっては，児童の思考力，判断力，表現力等をはぐくむ観点から，基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに，言語に対する関心や理解を深め，言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え，児童の言語活動を充実すること。

ポイント①

各教科等の指導において言語活動を充実

ポイント②

思考力，判断力，表現力等をはぐくむ観点から言語活動を充実

2 思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から「言語活動の充実」が求められる

(1) 各教科等の目標を実現するための手立てとして

各教科等における言語活動は、国語科で培った能力を基本に充実を図る必要があります。その際、各教科等の特質を踏まえつつ国語科との関連を図りながら取り組む必要があります。

→「言語活動の充実」が目的ではなく、あくまで各教科等の目標を実現することが目的！

ポイント①

各教科等の目標を実現するための手立てとして言語活動を充実！

※国語「基本的な国語の力を定着させたり、言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行う能力を培う」
(言語活動の充実に関する基本的な考え方)

(2) 思考力、判断力、表現力等をはぐくむためのものとして

ポイント②

子どもたちの課題である課題発見・解決能力やコミュニケーション能力等を育成するために、各教科等において思考力、判断力、表現力等をはぐくむ言語活動の充実を図る必要があります。

思考力、判断力、表現力等をはぐくむためには、例えば①～⑥のような学習活動が重要である。これらの学習活動の基盤となるものは、数式などを含む広い意味での言語である。このため、各教科の教育内容として、これらの記録、要約、説明、論述といった学習活動に取り組む必要がある。

① 体験から感じ取ったことを表現する

(例)・日常生活や体験的な学習活動の中で感じ取ったことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する

② 事実を正確に理解し伝達する

(例)・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する

③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする

(例)・需要、供給などの概念で価格の変動をとらえて生産活動や消費活動に生かす
・衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する

④ 情報を分析・評価し、論述する

(例)・学習や生活上の課題について、事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理する
・文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめてA4・1枚(1000字程度)といった所与の条件の中で表現する
・自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりする
・自国や他国の歴史・文化・社会などについて調べ、分析したことを論述する

⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する

(例)・理科の調査研究において、仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする
・芸術表現やものづくり等において、構想を練り、創作活動を行い、その結果を評価し、工夫・改善する

⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

(例)・予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を討論しながら考えを深め合う
・将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる

3 資質・能力の育成に向けて（中央教育審議会教育課程企画特別部会「論点整理」平成27年8月）

(1) 育成すべき資質・能力とは？ → 次期学習指導要領の方向性

背景：判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べたり，実験結果を分析して解釈・考察し説明したりすることなどについて課題が指摘されることや，自己肯定感や主体的に学習に取り組む態度，社会参画の意識等が国際的に見て相対的に低いことなど，子供が自らの力を育み，自ら能力を引き出し，主体的に判断し行動するまでには必ずしも十分に達しているとは言えない状況

- i 「何を知っているか，何ができるか（個別の知識・技能）」
- ii 「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」
- iii 「どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか（学びに向かう力，人間性等）」

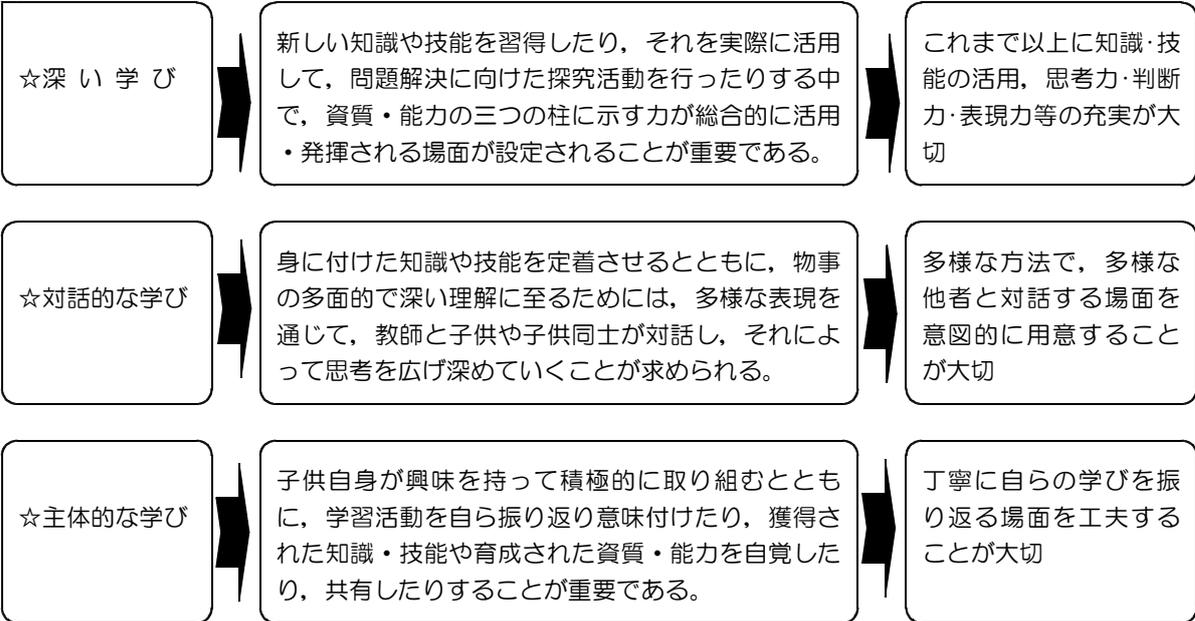
(2) 「アクティブ・ラーニング」の3つの視点

- i 習得・活用・探究という学習プロセスの中で，問題発見・解決を念頭に置いた**深い学び**の過程が実現できているかどうか。
- ii 他者との協働や外界との相互作用を通じて，自らの考えを広げ深める，**対話的な学び**の過程が実現できているかどうか。
- iii 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み，自らの学習活動を振り返って次につなげる，**主体的な学び**の過程が実現できているかどうか。

ポイント①
授業の中に「思考・判断・表現」するなどが生成され，学習意欲が継続的に喚起される場面が用意される必要がある。

ポイント②
学習活動のプロセスの充実が求められる。

「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」



4 思考力，判断力，表現力を引き出す学習活動とそのプロセス

(1) A校の取組

①	課題提示	子供の疑問などから本時のねらいを明確にした課題設定を行う。
②	問いをもつ	子供自身が自分事として課題を把握する。
③	問いの共有	どのような方法で課題にアプローチしていくかを隣同士や班，学級全体で見通していく。
④	自力解決	自分自身で課題について調べたりする。
⑤	集団解決	集団で考えを深めたりする。
⑥	価値の共有	課題解決に向けたまとめを行う
⑦	振り返り	練習問題などにも取組ながら学んだことを振り返る。

※課題発見を重視する授業では①～③を重点的に配分する。

※問題解決のプロセスを重視する授業では④～⑤を重点的に配分する。

(2) B校の取組

①	気付く・発見する	新たな事象に気付き，課題を発見し，興味をふくらませる段階
②	つかむ・見通す	学習の大まかな内容をつかみ，課題解決への見通しをもつ段階
③	追究する	調べ学習や観察・実験を行ったり，意見交流などを行ったりして事実を追究し，課題解決へ向けて学びを深めていく段階
④	まとめる	観察・実験による結果や，様々なタイプの資料から情報を抽出し，自分なりの考察を加え，自分の考えをまとめていく段階
⑤	生かす・伝える	習得した概念・法則などの知識や取材・発表などの技能を活用したり，自分なりの考察を加えてまとめた考えを発信したりする段階
⑥	評価	自己評価や相互評価を有効に活用し，5つの段階を振り返るとともに，次のプロセスの入口である気付きや発見を確認

5 授業研究に向けて→学習過程スタンダードの取組

- (1) 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す。
- (2) 授業の最後に学習したことを振り返る活動を行う。
- (3) 児童，生徒の考えを引き出したり，思考を深めたりする指導
- (4) 児童，生徒の発言や活動の時間を確保する。
- (5) 言語活動を適切に位置付けた授業

算数科学習指導案

日 時：平成28年11月25日（金）5校時

児 童：名寄小学校 4年2組 21名

指導者 増田 展明（T1）久保 成美（T2）

1 単元名

「垂直，平行と四角形」

2 単元について

本単元は，学習指導要領の「C 図形」の「図形についての観察や構成などの活動を通して，図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目し，図形についての理解を深める。」の内容である。具体的には「ア 直線の平行や垂直の関係について理解すること。」「イ 平行四辺形，ひし形，台形について知ること。」そして，算数的活動の「エ 平行四辺形，ひし形，台形で平面を敷き詰めて，図形の性質を調べる活動」に関わっている。

3 学年では，具体物を観察したり操作したりする活動をとおして，図形の特徴を理解し，弁別してきた。また，辺の長さや角度に着目するなどして，「二等辺三角形」や「正三角形」，「円」といった図形への関心を高めながら，それらの図形の特徴を捉えてきた。

本単元ではこれまでの既習事項をふまえ，2 直線の位置関係を表す概念として，垂直，平行を指導する。また，図形を分類する観点に辺の位置関係を加え，基本的な平面図形を台形，平行四辺形，ひし形にまで広げていく。四角形を構成する要素として，対角線についても指導する。例えば，ひし形の2本の対角線は垂直に交わり互いを2等分するなど，対角線の観点からも図形を考察させる。図形を分類したり，その性質を調べたり，作図したり，敷き詰めたりする活動を通して，平面図形の見方を深めていきたい。

3 児童の実態

本学級の児童は，素直で，物事へ熱心に取り組むことができる。また，学習面では発表への意識が高く，わかりやすい問題ではほぼ全員が発言することができる。自分の考えをノートに書いたり，言葉で説明したりすることができる児童が増えてきたが，自分の考えに自信が持てなかったり，どのように書けばいいかわからず停滞してしまったりするなど，個別の支援が必要な児童が数名いる。

単元に関わって，児童は身のまわりにある四角形を観察したり操作したりして，それらの特徴を捉えることができている。しかし，図形の特徴についてわかりやすく説明することや，作図することに対して苦手と感じている児童も多く，個人差が見られる。

4 指導の工夫

本単元では、垂直、平行は図形の関係を表す概念であることに注意しなければならない。折り紙で構成したり、三角定規で作図したりするなどの作業的、体験的な活動を充実させ、2本の直線の関係について実感をもって理解させる必要がある。

台形、平行四辺形、ひし形の学習の導入でも、具体物を使っているいろいろな四角形を構成し、それらを観察することをとおして共通の性質を見付ける算数的活動を行う。

また、学習者全員で学習規律を丁寧にするを前提として、友達と良好な関係を築きながら、学習することを意識して取り組んでいく。そのためにチーム学習のスタイルを取り入れ、意図的にあたたかい雰囲気交流を生み出す。

5 単元の目標および評価規準

(1) 単元の目標

- 直線の垂直や平行の関係について理解し、垂直や平行の関係にある直線を作図することができる。【C(1)ア】
- 台形、平行四辺形、ひし形について理解し、これらの四角形を作図することができる。【C(1)イ】
- 四角形の対角線について理解することができる。【C(1)イ】

(2) 単元の評価規準

観点	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
評価規準	・身のまわりから垂直や平行になっている2直線や、台形、平行四辺形、ひし形を見付けたり、作図したり、構成したりしようとしている。	・2直線について、垂直や平行という位置関係があることを見いだしている。 ・四角形(台形、平行四辺形、ひし形)について、その違いに気付き分類し、分類した四角形の特徴を見いだしている。	・垂直な2直線や平行な2直線を作図することができる。 ・台形、平行四辺形、ひし形を作図することができる。	・直線の垂直や平行の関係について理解している。 ・平行四辺形、台形、ひし形の意味や性質、四角形の対角線について理解している。また、図形に付いての豊かな感覚をもっている。

6 単元の指導計画

時	指導目標	○主な学習活動	評価規準
1	・垂直の意味を理解することができる。	○絵地図を見て道の交わり方を調べ、垂直の意味を知る。	・垂直の意味を理解している。 【知】

2	<ul style="list-style-type: none"> 平行の意味，性質を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○絵地図を見て道の並び方を調べ，平行の意味を知る。 ○平行な2直線の幅について調べ，2直線の幅はどこも等しいことや，2直線をどこまで伸ばしても交わらないことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 平行の意味，性質を理解している。【知】
3	<ul style="list-style-type: none"> 平行の性質を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平行な直線と交わる直線が作る角について調べ，2直線はほかの直線と等しい角度で交わることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 平行の性質として，平行な直線は，ほかの直線と等しい覚悟で交わることを理解している。【知】
4	<ul style="list-style-type: none"> 垂直や平行の関係にある直線を作図することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1組の三角定規を用いて，垂直な直線のかき方を考える。 ○1組の三角定規を用いて，平行な直線のかき方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 垂直，平行な直線を作図することができる。【技】
5	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を用いて垂直，平行を作り，その意味について理解を深めることができる。 垂直，平行な直線の作図のしかたをもとに，長方形を作図することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○紙を折って垂直や平行な直線を作る。 ○垂直，平行な直線の作図のしかたをもとに，立て5cm，横8cmの長方形のかき方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙を折って作った垂直，平行の定義を基に説明している。【考】 長方形の作図のしかたを，垂直，平行な直線の作図のしかたをもとに考えている。【考】
6 本時	<ul style="list-style-type: none"> 四角形や三角形の紙を重ねてできたいろいろな四角形を，辺の並び方に着目して分類する方法を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○四角形や三角形の紙を重ねてできたいろいろな四角形を，辺の並び方に着目して分類する。 ○台形，平行四辺形について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 四角形について，辺の並び方に着目して分類する方法を考えている。【考】
7	<ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形の意味，性質を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○平行四辺形の辺の長さや角の大きさを調べ，向かい合った辺の長さや角の大きさはそれぞれ等しいことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形の意味，性質を理解している。【知】
8	<ul style="list-style-type: none"> ひし形の意味，性質を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○紙を4つに折ってかどを切り取ってできた四角形を調べることを通して，ひし形に 	<ul style="list-style-type: none"> ひし形の意味，性質を理解している。【考】

		<p>ついて知る。</p> <p>○ひし形の辺の並び方や角の大きさを調べ、向かい合った辺は平行なことや、向かい合った角の大きさは等しいことを知る。</p>	
9 10	<p>・平行四辺形，台形，ひし形を作図することができる。</p>	<p>○平行な2直線を使って台形，平行四辺形をかく。</p> <p>○平行四辺形，台形の意味や性質をもとに，作図の仕方を考える。</p> <p>○園の半径を使ってひし形をかく。</p> <p>○ひし形の意味や性質をもとに，作図のしかたを考える。</p>	<p>・平行四辺形，台形，ひし形を作図することができる。【技】</p> <p>・平行四辺形，台形，ひし形を進んで作図しようとしている。【関】</p>
11	<p>・対角線の意味，四角形の対角線の性質を理解することができる。</p>	<p>○対角線について知り，いろいろな四角形の対角線の長さや交わり方を調べる。</p> <p>○平行四辺形，ひし形の対角線の性質をもとに，作図のしかたを考える。</p>	<p>・対角線の意味，四角形の対角線の性質を理解している。【知】</p>
12	<p>・ひし形などの図形の性質について理解を深めることができる。</p>	<p>○ひし形を対角線で切ってできる図形を調べ，その性質について確かめたり，ひし形が同じ形（合同）の二等辺三角形や直角三角形に分けられることを考えたりする。</p>	<p>・図形を分解したり構成したり，図形の性質を確かめたりするなど，図形に付いての豊かな感覚をもっている。【知】</p>
13	<p>・平行四辺形や台形を敷き詰めた図について考察し，図形についての感覚を豊かにすることができる。</p>	<p>○同じ形（合同）の平行四辺形や台形を敷き詰めた図のかき方を考える。</p>	<p>・平行四辺形や台形を敷き詰めた図の中にいろいろな形を認めたり，できる模様の美しさを感じたりするなど，図形についての豊かな感覚をもっている。【知】</p>
14	<p>・基本的な学習内容の理解を確認し，定着を図ることができる。</p>	<p>○単元のまとめをする。</p>	<p>・「垂直，平行と四角形」の学習のよさや考え方を振り返っている。【考】</p>

7 本時の展開

(1) 本時の目標と評価規準

目標	・いろいろな四角形を辺の並び方に着目して分類する方法を考えることができる。
評価規準	・いろいろな四角形を辺の並び方に着目して分類する方法を考えている。【考】

(2) 展開

過程	○主な学習活動 ・予想される児童の発言等	◇教師のおもな働きかけ	■評価規準 ▲支援児童への手立て
つかむ3分	○前時の復習をする。 「紙を折って、垂直や平行を作った。」 「垂直な直線や平行な直線を使って、長方形をかいた。」 ○本時の見通しをもつ。 ・私たちの生活の様々な場面でいろいろな形の四角形が使われている。 ・それらの四角形はどのように仲間分けをすることができるのだろうか。 「全部、同じ『四角形』でいいのだろうか。」	◇前時の板書や前時で学習した内容をまとめた掲示物で視覚的に振り返る。 ◇いろいろな四角形に興味を示すよう、掲示物を用いて視覚的な提示を図る。	▲視覚的な提示と問い返しにより確実な理解を図る。
考える25分	○課題を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">いろいろな四角形を仲間分けして、なぜそうなるのかを友達と説明し合おう。</div> ○課題を解決する見通しをもつ。 ○教科書 p. 41 のあ～おの四角形を仲間分けし、なぜそうなるのか理由を考える。(個人思考)	◇「平行」という観点に着目させる。	▲四角形のカードを用いて、反具体物の操作をしながら理解させる。 ▲見当が付かない児童は、黒板前に集め、活動を再度説明する。(ヒントレベル1) ▲早くできた児童のところへ行き、解決のヒントとなる情報を得る。(ヒントレベル2)

	<p>○個人で思考したことをグループで発表する。(再生過程の共有)</p> <p>○個人で発表したことを基に、グループで仲間分けを考え、その理由を確定する。(創造過程の共有)</p> <p>○調べたことを、発表する。 「あとうは、1組の辺が平行な四角形だ。」 「いとおは、2組の辺が平行な四角形だ。」 「えは、どの辺も平行になっていない。」 ○台形と平行四辺形について知り、その特徴を理解する。</p>	<p>◇関わり合う目標とルールを提示した上でグループ交流を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの全員が発表した後に、グループで大きな画用紙に分類した図を作る。 ・良好な関係で関わり合い、一人ではなくみんなで協力してできたことを実感する。 <p>◇ラウンドロビンで個人思考を共有する。</p> <p>◇画用紙に図形を仲間分けして貼り、説明するよう指示する。</p>	<p>■いろいろな四角形を辺の並び方に着目して分類する方法を考えている。 【考】(ノート・発表・発言)</p> <p>※関わり合いの木曜が達成できているかどうかも評価する。</p>
<p>広 げ る ・ 深 め る 1 7 分</p>	<p>○まとめ</p> <div data-bbox="204 1559 1425 1682" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>四角形は向かい合った1組の辺が平行な四角形(台形)と向かい合った2組の辺が平行な四角形(平行四辺形)、どの辺も平行ではない四角形に仲間分けすることができる。</p> </div> <p>○教科書 p.42 の確かめの問題に取り組む。</p>	<p>◇できた児童から解答し、正答した児童は解答役やアドバイザーになるよう指示する。</p>	

<p>○本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台形と平行四辺形の特徴が理解できたか。(教科の目標) ・グループで協力して四角形の仲間分けを完成することができたか。(関わり合いの目標) ・友達とあたたかい関係で関わり合うことができたか。(関わり合いの目標) ・友達と関わり合うことのよさを実感したか。(関わり合いの目標) など <p>○本時の振り返りを交流する。</p>		
---	--	--

算数科授業研究のまとめ

日時：平成28年11月25日（金）5校時

児童：名寄小学校 4年2組 21名

指導者：増田展明（T1） 久保成美（T2）

単元名：「垂直，平行と四角形」

1. 授業者から

○最初に立てた指導案の内容が盛りだくさんであったため、「紙を重ねていろいろな四角形を作る」「どのような四角形が完成したか交流する」活動をカットした。

2. 交流

○自分の考えをもち、それをグループ内に伝え、グループ意見を創りだしていく過程が徹底されていた。創りだそうとする一体感がある。

○普段から学習訓練が行われている。

○発言する時間をしっかり保障していた。

○理解できていない児童への手だてが計画された授業

・指導者が、理解できていない児童を集め活動内容をわかりやすく説明する配慮

（ヒントレベル1）

・早くできた児童から解決のヒントとなる情報を得る。（ヒントレベル2）

●四角形のグループ分けについて、指導者は「平行」という視点から考えさせたかったが、前時に習った「垂直」の概念から考えた児童がおり、本時のねらいに迫る場面で工夫が必要であった。

●児童にとって、解決に向かう「作業」への見通しをもてた授業ではあったが、「解決方法」への見通しという視点では、工夫が必要だった。

●方眼紙や実物投影機を使用して、向かい合った辺が「平行」であることを強調させた方が良かった。

●「説明できた」をどう見とるのか工夫が必要である。

小学校 第6学年 道徳学習指導案

主題名	困難を乗り越えて		
資料名	名寄岩	出典	自作資料（参考文献：「涙の敢闘賞」）
学習指導要領の「内容」	1－（2）希望・勇気・努力 より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。		
ねらい	より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力しようとする態度を養う。		
資料のあらすじ	名寄岩は相撲界で『名寄』を全国的に広めた力士である。昭和7年の初土俵以来昭和29年（40歳）の引退まで不撓不屈の精神で相撲を取り続ける。「病気のデパート」と名付けられるほど多くの病気を患い、自分が努力して勝ち取った大関から陥落。しかし、相手力士とも病とも勇気をもって立ち向かった名寄岩。律儀で礼儀正しい名寄岩の相撲道は、「力士の鑑」として、日本相撲協会より特別賞を受賞する。		
他教科・他領域や日常指導などとの関連	6年生は、小学校最高学年として自分の将来について真剣に考え始める時期である。自分を振り返る段階において、日常生活で努力していることや今後努力すべきことを交流し合う活動を通して、自己実現のための実践意欲を喚起する。また、キャリア教育の一環として、目標をもって生活することの大切さを指導する際に、本時の学習を関連付ける。		
評価	目標に向かって、希望と勇気をもってくじけないで努力しようとする態度が養われたか。		

段階	学習活動（主な発問と児童の予想される反応）	●指導上の留意点 ◆指導の工夫 ★評価
導入	(1)本時の価値への方向付けをする。 ・自分の今の目標や頑張っていることを想起し、交流する。	●本時のねらいを明確にする。 ◆「私たちの道徳」を活用する。
展開	(2)名寄岩について知っていることを発表する。 ・お相撲さん ・名寄出身の人 ・スポーツセンターにある銅像 (3)「名寄岩」を読んで話し合う。 ①努力を続けて大関になった名寄岩は、どんな気持ちだったか。 ・努力が実ってうれしい。 ・これからもしっかり頑張ろう。	◆写真や映像を提示し、資料への導入を図る。 ◆資料の提示方法を工夫する。 ●自分の目標に向かって努力を続けた名寄岩の喜びや次への意欲に共感させる。

	<p>②病気を患い、自分が努力して勝ち取った大関から陥落したとき、名寄岩はどんな気持ちだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陥落して悔しい。 ・相撲をやめたい。 ・もっと努力してもう一度大関になる。 <p>③なぜ、名寄岩は大関から陥落しても相撲をやめなかったのだろうか。(中心発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相撲が大好きだったから。 ・心が強い人だったから。 ・自分が納得するまで相撲をとりたかったから。 <p>④相撲をやめる道を選ばず、好成績で敢闘賞を受賞した名寄岩をどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢に向かって努力をする姿勢がすばらしい。 ・自分もその姿勢を見習いたい。 ・自分も努力して夢を実現したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●名寄岩の状況（多くの病気を患い、周囲からは「病気のデパート」と名付けられ、痛みのせいで稽古も十分にできない）を確認する。 ●名寄岩が困難に直面した時の辛さや苦しさを感ず取らせる。 ●困難に挫折しそうになりながらも、自分の目標に向かって頑張ろうとする心の葛藤を理解させる。<心の揺さぶり> ◆ワークシート等を活用する。 ★目標に向かって、希望をもってくじけないで努力することの大切さについて考えることができたか。 ●自分がもし名寄岩だったら、同じ困難を乗り越えることができたかどうかを考えさせる。(補助発問) ●目標達成のためには、だれもが弱さを乗り越えていることに気づかせる。 ●名寄岩の充実感や満足感を通して、目標達成の喜びを感じ取らせる。
	<p>(4)生活を振り返って話し合う。</p> <p>①自分の目標を達成するために、これから大切にしたいことはどんなことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・失敗を恐れず、いろいろなことに挑戦する。 ・くじけないで頑張る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ワークシート等を活用する。 ◆今後努力すべきことを交流することで目標に向かって努力しようとする実践意欲を喚起する。 ★目標に向かって努力しようとする実践意欲を高めることができたか。
<p>終末</p>	<p>(5)本時を振り返る。</p> <p>①本時の学習から気付いたことや心に残ったことを発表する。</p> <p>②教師の説話</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆本時の価値について確認する。 ●「私たちの道徳」を活用する。

名寄岩

北海道名寄市のほぼ中央に位置するスポーツセンター、そこに大きな力士の銅像が立っています。

今では、お年寄りの方しか知らないかもしれませんが。この力士の名前は「名寄岩」。昭和初期を代表する大関の一人です。この銅像が立っている名寄市は、北海道でも有数の豪雪地帯です。もちろん、この銅像にもたくさんの雪が積もります。それでも、「名寄岩」は長い間、前を見据えて堂々と立っています。さて、この「名寄岩」はどのような人生を歩んできたのでしょうか。

約十七年もの間、名寄市で過ごしていた名寄岩。十七才の時に勉強のため東京へ上京した時に、立浪部屋にスカウトされ、そのまま相撲界へと進みました。

他の誰よりも体格の良かった名寄岩は、昭和十年には全勝優勝し、三段目を一場所通過。翌年には幕下でも優勝し、入幕を果たします。しかしその一方で、同じ相撲部屋の後輩である「羽黒山」が、名寄岩以上の速さで昇進を決めていきました。名寄岩は羽黒山をライバル視しながらも、相撲へ一生懸命に取り組みました。

転機が訪れたのは昭和十四年。二人はともに関脇となり、同時に大関の昇進をかけて対戦することになったのです。絶対に後輩には負けたくない名寄岩。勝負にかける意気込みは、今まで以上のものでした。しかし、結果は羽黒山に軍配が上がりました。名寄岩は敗れ、弟子の羽黒山が大関へと昇進したのです。同じ部屋の力士とはいえ、後輩に大関昇進で先を越されてしまった名寄岩は、どれだけ悔しかったことでしょう。

けれども、名寄岩は努力を惜しみませんでした。再び、大関になるために立ち上がったのです。その努力の甲斐もあって、三年後には、念願の大関に昇進することができました。

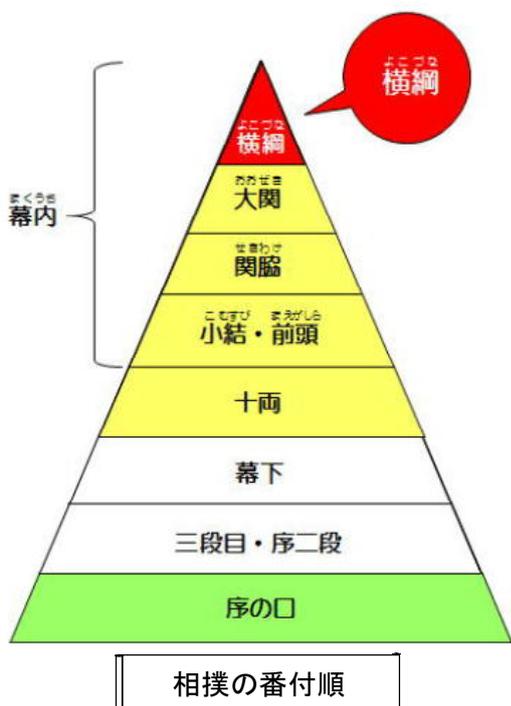
そんな喜びとはうらはらに、多くの病気を患い、周囲からは「病気のデパート」と名付けられるほどでした。痛みのせいで稽古も十分にできません。だんだん、全盛期の活躍は見られなくなり、十一戦全敗という成績を残すまでとなってしまいました。自分が努力して勝ち取った大関からも陥落してしまいました。そんな名寄岩の様子を見て、周囲の人たちは、名寄岩の引退をささやき始めていました。

しかし、負けず嫌いの名寄岩の思いは違いました。名寄岩は相撲をやめる道を選ばなかったのです。三勝十二敗という成績に甘んじた次の場所で、名寄岩は見ちがえるような姿を見せました。痛みにたえてがんなばったのです。最終的に九勝五敗の成績を残し、勇気をもって戦ったことを賞する敢闘賞が授与されました。これは、多くの力士と病に立ち向かった名寄岩の勇気が認められたしゅん間でもありました。

名寄岩は、こう語っています。「わたしは日ごろ、人間は苦労しなければ、本当の人間にはなれないと、よく若い者にも言い聞かせていますが、相撲取りの場合も『艱難汝を玉にす』であって、どこまでも苦労をしのいでゆくことが大切ではなからうかと考えています。」

名寄岩の姿が全力士の鏡として、日本相撲協会から四十歳のとき特別表彰を受け、後に春日山部屋を再興しました。

多くの力士や病に立ち向かい、「不撓不屈」の精神を讃えられ名寄岩は銅像となつて今でも、名寄の地で立ち続けています。



相撲の番付順

名寄岩の像

「名寄岩」 学校名【名寄市立名寄小学校】

学習指導G作成の指導案を使用した【成果】

- ・展開の①～④の主な発問は、ねらいに迫るためのよい発問だと思う。
- ・③の主な発問の補助発問「自分がもし名寄岩だったら、同じ困難を乗り越えることができたか」では、困難に挫折しそうになる気持ちと乗り越えようとする気持ちの両方がしっかり出てきた。

学習指導G作成の指導案を使用した【課題】

- ・本児の「テーマ」と「課題」が位置付いていない。位置付けない学校は、問題ないと思うが、位置付ける学校は、実践するとき困るのではないか。
- ・展開（４）「生活を振り返って話し合う」と終末（５）「本時を振り返る」のねらいの違いは何なのかわからない。
- ・終末（５）の「②教師の説話」では、「私たちの道徳」を活用するとあるが、何のページのどこを活用するのかわからない。

学習指導G作成の指導案を使用した【改善策】※あれば記入して下さい。

- ・終末（５）「本時を振り返る」は、必要ないのではないか。
- ・「私たちの道徳」の活用の仕方を明記する。

「名寄岩」 学校名【名寄市立名寄南小学校】

学習指導G作成の指導案を使用した【成果】

- ・わたしたちの道徳を上手く活用できる流れになっている。
- ・地域に根ざした教材づくりによる自分たちへの地域への愛着を深めることにつながった。
- ・名寄岩の努力を知り，自分が目標を達成するために大切にしたいことを具体的に記すことができた子が多かった。
- ・羽黒山の存在が名寄岩の努力を際立たせてよい。

学習指導G作成の指導案を使用した【課題】

- ・考えさせる場面が多く，全体的に活動が多いので精選する必要も
- ・動画があれば導入部分で使えると感じた。
- ・「なぜ，名寄岩は大関から陥落しても相撲をやめなかったのだろう。」これの答えは，あくまで想像でしかない。だとすると，手がかりもない中で中心発問とするのは難しいと感じた。

学習指導G作成の指導案を使用した【改善策】※あれば記入して下さい。

- ・発問例「大関から陥落したとき，その後どんな道を選んだのでしょうか。」

子どもの予想される意見

- ① 引退した ② 復活した ③ がんばったけど，復活できなかった など

②から，名寄岩のすごいところはどんなところなのか？

→・最後まであきらめなかった。

- ・病気になっても，努力し続けた。

- ・くじけそうになる心に負けなかった。

につなげていくことも考えられます。

「名寄岩」 学校名【名寄市立名寄西小学校】

学習指導G作成の指導案を使用した【成果】

- ・名寄岩の教材を通して、子どもたちに努力や不倒不屈について考えさせることができた。
児童のワークシートの言葉（授業で心に残ったこと）抜粋
「あきらめないで努力をすることで賞を受賞したり、ちょっとずつ何でも上手になれたりする。これからも、何事にも努力することが大切だとわかった。」
「あきらめない精神がすごいと思った。懸賞金をもらうときのしぐさを作ったのが名寄岩というのを初めて知った。ぼくも、あきらめない精神で野球を頑張っていきたい。」
- ・名寄岩の教材を通して学んだことを、学校行事にも生かしている児童がいた。「名寄岩のように、最後まであきらめず、学習発表会を成功させよう。」と、声を掛け合う姿が見られた。

学習指導G作成の指導案を使用した【課題】

- ・発問が多い。発問①「努力を続けて大関になった名寄岩は、どんな気持ちだったか。」②「病気を患い、自分が努力して勝ち取った大関から陥落したとき、名寄岩はどんな気持ちだったか。」は、児童の回答が限定されてしまう。そのため、省略しても差し支えないと考えられる。（内容も盛りだくさんなため、後半に児童の交流の時間を確保させたい。）
- ・名寄岩の活躍は、時代的にあまりなじみがないため、児童に理解させるのが難しい。名寄岩の努力を子どもたちに余裕をもって紹介する時間を確保したい。

学習指導G作成の指導案を使用した【改善策】※あれば記入してください。

「名寄岩」 学校名【名寄市立名寄東小学校】

学習指導G作成の指導案を使用した【成果】

- ・名寄岩を取り上げた良さ(地域の教材)。
- ・導入の映像が効果的に意欲を喚起することができた。

学習指導G作成の指導案を使用した【課題】

- ・この「名寄岩」の資料では、ねらいを達成するのは難しい。

(高学年のA(5)希望と勇気, 努力と強い意志)

特に、中心発問までの(困難さ・くじけない努力)をおさえることが難しい。

資料の描写

学習指導G作成の指導案を使用した【改善策】※あれば記入して下さい。

- ・ねらいを達成するためには資料の文章を変える必要がある。
上記の内容を詳しくし、必要のない部分は削除すべき。
しかし、作っていただいた先生は、文才があり素晴らしいと感じる。
ありがとうございます。

「名寄岩」 学校名【名寄市立中名寄小学校】

学習指導G作成の指導案を使用した【成果】

- ・自分の目標や夢を明確西, 名寄岩という地元の尊敬すべき人物に感銘を受け, 子供達の心を揺さぶる授業となった。
- ・スポーツセンターへいったことがある児童の中に, 名寄岩を知らない児童がいて, 存在を知る良い機会となった。

学習指導G作成の指導案を使用した【課題】

- ・自分自身の授業に対しての課題は多々あるが, 本指導案を使用したことによる課題は特にありません。

「名寄岩」 学校名【名寄市立風連中央小学校】

学習指導G作成の指導案を使用した【成果】

- ・指導案の発問はそのまま使うことができ、有効だった。
- ・事前に夢や目標を想起させたことで、終末では自分が夢や目標に向かって努力しているかどうかを、しっかり振り返ることができた。
- ・資料から名寄岩の心情を考えたり、どうして相撲を続けたのかを考えたりしながら、一人一人が夢や目標を実現するために大切なことを捉えることができた。

学習指導G作成の指導案を使用した【課題】

- ・自分の夢や目標は本時に想起させるのではなく、事前に考えさせておき、本時は確認から始めたので授業がスムーズに流れた。
- ・振り返りの場面では、まず、現在夢や目標に向かって努力しているかを想起させた方が、これからの実践意欲を高めることにつながると思う。
- ・相撲は子ども達になじみのないものなので、相撲の世界の厳しさ、大関になることの大変さを実感しにくい。

学習指導G作成の指導案を使用した【改善策】※あれば記入して下さい。

- ・今回は、相撲の世界を少しでも知り、名寄岩の心情に共感できるよう、写真や映像の資料（相撲部屋の厳しい稽古の様子、厳しい番付システムなど）を見せてから、読み物資料に入った。相撲は子ども達にとっては難しい題材ではあるが、写真や映像の資料を見せることで、興味をもって読み物資料に入ることができた。
- ・名寄岩のケガの内容など、細かい情報を教師がもつことが授業の安定につながった。

「名寄岩」 学校名【名寄市立智恵文小学校】

学習指導G作成の指導案を使用した【成果】

- ・身近な地域の先人の生き方を学習することで、子どもたち一人一人が共感することが出来たので、資料としては最高だと思う。
- ・「夢に近づくためには、何が大切なのかを考えていこう」というテーマを元に子どもたちと話し合いながら最後は子どもたちの言葉でまとめることが出来た。
- ・大関から陥落した後、自分だったら①相撲を続けるか②相撲をやめるか③迷うと三択にして考えさせ、名寄岩の心情を考えさせたのは良かったと思う。

学習指導G作成の指導案を使用した【課題】

- ・病気のデパートと名付けられ、痛みのせいで稽古もできないそんな名寄岩のおかれた状況をもう少し詳しく子どもたちに落としてから、名寄岩の気持ちを考えさせれば良かったと感じた。勝ちたい、相撲をとりたい気持ちはあるものの、自分ではどうしようも出来ない・・・その辛さを十分に感じた上で自分だったらどうするかを考えさせればもっと色々な意見が出たと感じた。

学習指導G作成の指導案を使用した【改善策】※あれば記入して下さい。

- ・今回は、資料を区切りながら進めてみた。相撲の用語も適宜解説しながら進めたことで、相撲が分からない子どももすんなりと資料に入っていたように思う。

中学校 第3学年 道徳学習指導案	
主 題 名	目標に向かう強い意志
資 料 名	メッセージ『松井秀樹』私たちの道徳(P.20)
学習指導要領の「内容」	1－(2) 希望・勇気・強い意志
ね ら い	障害や困難にくじけることなく、希望と勇気をもって目標を達成しようお努力する道徳的実践意欲を培う。
資料のあらすじ	松井秀喜は1990年代から2000年代の球界を代表する長距離打者で、日米で活躍し、2013年には国民栄誉賞を受賞。しかし、メジャーリーグに移籍した当初は思うような成果を上げられずに悩むこともあった。しかし、大きな目標を達成するための小さな目標を設定し、具体的な行動目標を立てた。
他教科・他領域や 日常指導などとの関連	中学生の時期には、自分の好むことや価値を認めたものに対しては意欲的に取り組む態度がはぐくまれてくる。しかし、一方では、障害や困難に直面すると簡単に挫折したり、苦労や努力が必要と予想されることについては無関心な態度を示したりすることも多い。 松井秀喜選手の生き方を学び、困難に屈しないで、粘り強く一步ずつ着実にやり遂げる強い意志と態度を育てたいと考える。
評 価	大きな目標を達成するためには、目標を分析したり具体化したり、色々な工夫が大切であることに気づき、目標を達成しようとする意欲が見られたか。

段階	学習活動（主な発問と児童の予想される反応）	●指導上の留意点 ◆指導の工夫 ★評価
導入	(1) 本時の価値への方向付けを行う。 ①「中学生のうちに達成したい目標を書いてみよう」 ・進路に関わること ・部活動に関わること ・テストに関わること ②「目標を達成した時と挫折した時の取り組み方の違いと、その時の気持ちの違いを思い出してみよう」 A 達成 ・真剣 ・本気 ・うれしい ・自信 B 挫折 ・中途半端 ・あきらめた ・悔しい ・自己否定	● 本時のねらいを明確にする。 ● P.17 に書き込ませる。 ● 書いた目標は特に発表させない。 ● 全体交流し、気持ちの共有を図る。
展開	(2) 松井秀樹について知っていることを発表する。 ・野球選手 ・読売ジャイアンツ ・すごい人 ・メジャーリーガー (3) 松井選手の資料を読んで、話し合う。 ①「松井選手はどのような気持ちで大リーグに挑戦し	◆ 松井選手のプロフィールを「映像・写真・文書」などで提示し、資料への導入を図る。 ● 資料 P.20 を読み、松井選手の気持ちを考えさせる。

	<p>たのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界で活躍したい ・自分を試したい ・高いレベルでやりたい ・挑戦 <p>②「移籍当初、ゴロ王と呼ばれた時、どんな気持ちになっただろうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恥ずかしい ・悔しい ・こんなはずじゃない ・みじめ ・日本に帰りたい ・公開 <p>③「スランプの松井選手を支えたものは何だったと思いますか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強い気持ち ・ファンの期待 ・目標を数字から行動にしたことでの手応え <p>④「一歩ずつの目標を決めてから、松井選手の気持ちはどう変わっただろうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やる気が出た ・迷いがなくなった ・面白くなった ・混乱しなくなった 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の夢や目標 ・挫折のつらさ ・克服への道のり <ul style="list-style-type: none"> ● 自信を打ち破られた松井選手の気持ちに気づかせる。 ● 決してあきらめなかった松井選手の思いが克服に向かう原動力となった点を押さえる。 <ul style="list-style-type: none"> ● 小さな目標でも、それらを達成していく喜びが自信となり、次の目標に向かう意欲となることに気づかせる。
終末	<p>(4) 自分自身を振り返る。</p> <p>「今後の自分自身の目標に対して、どんなふうに取り組むかを書いてみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さな目標に分断する ・目標をもっと細かく分析する ・絶対に達せようするという強い気持ちをもつ <p>(5) 本時の振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 小さな努力の積み重ねによって大きな目標の達成につながることを理解させる。 ★自分の立てた目標に向かって努力しようとする実践意欲を高めることができたか。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 過去の偉人の言葉 (P.21) を紹介し、教師の説話で授業を終える。

「松井秀喜」道徳学習指導案（中学校第3学年）について

名寄中学校で実施した道徳授業の指導案は、27年度教育改善プロジェクト委員会の「学習指導の工夫改善に関する研究グループ」で作成した物です。（今回、授業者により多少アレンジした箇所もあります。）この指導案について、資料や発問等が効果的であるか検証も兼ねて実施しています。

○導入（本時の道徳的価値への方向付けを行うことができたか）

- ・「人生の目標」を書くことで、道徳的価値を自分のことに置き換えることはできているが、本時の「希望・勇気・強い意思」には迫りきれていないと感じた。②の発問を「過去を振り返り、目標を達成したことか、うまくいかなかったことを思い出し、その原因を書いてみよう。」というものから「過去を振り返り、うまくいかなかったことを書きましよう。」としてはどうか。
- ・生徒に、これからの人生における目標を書かせる活動は、自己を見つめ直すことに結びつく有効な手立てであったと感じました。展開の後半に、自分の目標を見つめ直す場面を位置付けるなど、一層効果的な活用方法等の可能性がある手立てであったと思います。
- ・指導案のとおり、道徳的価値への方向付けを行うことができたと思います。
- ・生徒の思考の流れを考えて、『自身の目標』の内容を広げたことは自然で良かった。また、「今までの成功体験・失敗体験」を想起させる場面においても、課題を絞っていたことで、ほとんどの生徒がなんらかの考えを記入することができたように思う。
- ・中体連など、具体的に教師側が記入する内容を提示してよかった。
- ・自分の体験に置き換えることで課題を身近に感じることができていた。
- ・スムーズにできていた。
- ・自分の目標を書かせる場面で、終末時に使うことを考えると「何でも良い」だと難しいような気がしました。
- ・目標に対する経験で、達成できた経験と、達成できなかった経験の両方を書かせてもよいと思いました。
- ・できていたと思います。
- ・松井の目標について確認した方がよかったように思います。
- ・道徳的価値への方向付けのためにも、「人生の目標」を書けていない生徒もいたが、大事な活動だと思いました。中学3年生という時期を考えると、思っても表現できない（しない）生徒がいるのは仕方がないと思いました。「過去の振り返り」は多くの生徒が書けており、発問も適切だと思った。
- ・「これからの人生における目標を書いてみよう」というのが、漠然としすぎていて、何を書いたら良いのかが分かりづらかったと思う。ただ、その後、教師からの補足説明があったので、ほとんどの生徒が書くことができていた。また、自分自身について問う質問だったので、道徳的価値への方向付けになったと思う。

○展開（松井秀喜の資料や発問は効果的であったか）

- ・松井秀喜の活躍について知らない子どもが多かったため、松井選手の高校時代からの活躍を紹介し、メジャーリーグでの挫折を伝えると分かりやすかったと思う。
- ・発問や書く活動がとて多い。教材をしっかりと読んだ上で、発問を⑤と⑥の2つに絞ってはどうか。また、その2つをじっくりと子どもに考えさせる時間も確保させたい。
- ・班活動では、個人の考えを3つにまとめていたが、せっかく子どもたちが考えたものを3つにまとめる意味が分からなかった。この場合は、班でKJ法などを用いて、それぞれの意見を道徳の価値（希望・勇気・強い意思など）に分類させてはどうか。
- ・全体交流では、KJ法で話し合った用紙を用いながら、それぞれの班の良さを見つけさせても良いと思う。
- ・野球をよく知らない生徒のために、「メジャーリーガー」「大リーグ」「ニューヨーク・ヤンキース」「松井秀喜の実績（春夏4回甲子園出場、外野手4番の強打者など）」「日本のプロ野球界の中心選手」「ストライクゾーン」「外のストライクゾーン」「甘い球」「ゴロ（王）」「ワールドシリーズ」等に係る解説資料が必要だったと感じました。（予想以上に、野球を知らない生徒が多いことに驚きました。）
- ・題材が「読み物資料」の場合は、登場人物の心情を考えることをとおして道徳的諸価値について理解させる等の学習が考えられますが、本題材は「松井秀喜のメッセージ」であることから、指導過程や発問等について、さらに工夫改善を図る必要があるように感じました。
- ・「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く 強い意志をもつ」という内容項目を指導するための指導過程や発問等について、生徒が書いたワークシートの内容等を踏まえ、これからも検討を重ね続けることが大切だと感じました。
- ・松井秀喜さんが誰なのか理解していない生徒が多く、そのような視点から考えると十分な資料ではなかったかと思います。日本での活躍に対しアメリカで思ったような活躍ができないことについての悩みがどこまで理解できているのかなと思いました。
- ・今の生徒達にはほとんど馴染みのない「松井」をよりイメージしやすいように具体的に補足説明をしていたため、「展開」も滞ること無く進んでいたと感じた。
- ・ICTを使うのであれば、まさにここで「プロジェクトX」か「情熱大陸」っぽい映像（動画）が入ると引き込むことができたと思う。
- ・発問に関しては、あまり深まる考えを引き出すには弱いように感じた。（代案は思いつかないが）松井の境遇を実感させるような投げかけが必要だと思う。
- ・グループの意見をまとめるための単票づくりは、「見える化」として良い方法だと感じた。（そのまま教室掲示にもできる。）
- ・松井秀喜を知らない生徒が多い中でしたが、あまり違和感なく課題に迫ることができていたと思いました。もし知らない生徒が多いのであれば映像を見せても良かったかなと思いました。
- ・松井秀喜自体を知らない生徒もいたが、野球に関する説明が丁寧になされていたので共通理解をしたうえで、課題に取り組んでいたと思う。
考える→考えを深めるように段階を経た発問であった。

○展開（松井秀喜の資料や発問は効果的であったか）

- ・偉人の話や言葉は、大変説得力があり、生徒にとっても考えやすいものであった。ゴロや内角・外角などについては、教師による事前の説明が必要だと感じた。
- ・松井秀喜の人物像や野球というスポーツについての予備知識など、関連する資料も用意する必要があると感じました。
- ・展開の中の発問は良かったと思います。
- ・ほとんどの生徒が知っていて、興味の持てる資料だったと思います。
- ・松井について知らない生徒が多いので、名寄岩同様に資料を提示しながら進めるともっと深めることができたと感じました。
- ・ほとんどの人が知っているだろうと思われる、そして、偉大な人物を取り上げることは良かった。また、今回行った発問により、その人物の気持ちや状態の変化を順番に明示することができていた。その結果、少しずつ目標達成に向かっていく姿を捉えることができ、より効果的になったと思う。

○終末（自分自身を振り返り道徳的価値への自覚を深めることができたか）

- ・交流したことを発表させるだけで終わらせずに、他の子どもの意見の良いところを見つけて、振り返る時間を設けるとよいと思った。
- ・まとめの文言を板書していたが、それは思想統制になってしまう。道徳の学習なので、それぞれの子どもたちが気付いたことを、まとめずにオープンエンドにするべきだと思った。
- ・中学3年生の、この時期に振り返るには、時宜を得た道徳的価値であったと思います。
- ・時間配分の難しさを感じた。その後、どんな感想が出ていたのかとても興味があります。
- ・自分の考えをグループで発表し、他の考えを聞くことで、より自分の考えが形となって見えてきた生徒もいたので、良かった。
- ・個人からグループによる話し合いで考えを深め、最後は自分を振り返る活動になっていた。また、最初に書いた自分の目標に対してできる「小さな努力」を考える場面がよかった。
- ・導入に書いた「将来の目標」と結びつけるとなると、その目標がどのようなもので印象が違う気がします。
- ・最後の、名言を扱う場面では、「どの言葉が好きか」など子どもたちへの問いかけで終わってもよかったかと思いました。
- ・松井秀喜の資料から学んだことを、自分自身の今後の中学校生活の目標につなげることができたと思います。
- ・時間が足りなかったなので、ある程度の時間を確保することは必要だと思いました。指導演案としてはよいと思います。
- ・自分自身のこれまでの取組とこれからの取組を考えさせる良い内容であり、日常の実践につながる終末であったと思う。

○その他（何か気がついたことがありましたら記入下さい）

- ・3学年の全員が道徳の時間の学習に向かう姿に、学級経営はもとより、学年経営のすばらしさを感じました。班活動においても、全員が同じ方向に向かって考えている姿を見せていただき感動しました。3年生を育ててきた名寄中学校の全先生方に、心から御礼を申し上げます。
- ・中学生の道徳授業を初めて参観致しました。しっかり課題に取り組む姿に感心しました。指導案の検討から授業プランの再構築等、本当にお疲れさまでした。担任の説話を一番聞きたかったです。
- ・全員が課題にとりくむ姿勢や集中力の高さが小学校とは違うなと感じました。授業者の先生、ありがとうございました。
- ・実際に授業をしてくださった名中の先生方からの意見が重要だと思います。
- ・お忙しい中、授業公開を参観させていただきありがとうございました。
- ・3人の先生方、大変お疲れ様でした。生徒の質の高さに驚きました。普段の学年・学級経営のご努力が感じられる授業でした。
- ・授業をされた3人の先生方、大変お疲れ様でした。一所懸命授業に取り組む生徒たちの姿が印象的でした。ありがとうございました。
- ・ICT 機器とペーパーの表示物を上手に使いこなしていたと思う。また、個人思考からグループ内での交流につなげたことも良かった。